

# どうぶつ ZOO 館

**ヤブイヌ**  
 ヤブイヌは食肉目イヌ科。オオカミやタヌキと同じイヌの仲間だよ。ヤブイヌの一番の特徴はこの細長い胴と短い足！一見不細工な姿をしているけど、これはヤブイヌの生活に役立っているんだ。



ヤブイヌは名前にあるように藪の中で暮らしているよ。藪の中をスムーズに走り回ったり、穴を掘るのに細長い胴と短い足が適しているんだ。



そして、泳ぎも得意なんだ。足の裏に注目すると…ほら！指の間に水かき状の皮ふがあるよ。これを使って上手に泳いで、時には泳ぎの得意なカピバラを狩ることもあるんだ。



# ZOOっと平川

## 秋にぴったり新メニュー&新商品が続々登場!! 売店紹介

**遊園地売店おススメ!**  
**スピンスナック**  
 300円  
 サクッとかる〜いコーンスナック!

その場で揚げているからサクサク! 6種類のフレーバーから1種類を選んで自分でシャカシャカ! 作って楽しいスナックです。

**象舎前売店おススメ!**  
**HIRAKAWA ZOOLOGICAL PARK**  
 COFFEE TEA

おしゃれなパッケージのティーバッグ(コアラ)とドリップコーヒー(アマミノクロウサギ)。ご自分やお友達へのお土産にいかがですか?  
 オリジナル紅茶 **300円**  
 オリジナルコーヒー **350円**

**ゲート売店おススメ!**

ちまたで話題のリアルなぬいぐるみが登場! は虫類好きは要チェック!!

他にも大人な味の「アフォガートサンデー」(ふれあい売店で350円)やしろくまの進化版! 「ハロハロしろくま」(ふれあい売店で500円)などなど、各売店で販売中です。どれにしようか迷っちゃう!? ※いずれも税込

**鹿児島市平川動物公園**

〒891-0133 鹿児島県鹿児島市平川町5669-1  
 TEL.099-261-2326 FAX.099-261-2328  
 ■開園時間:午前9時~午後5時(入園は午後4時30分まで)  
 ■休園日:12月29日~1月1日  
 URL <http://hirakawazoo.jp/>  
 Facebook <https://ja-jp.facebook.com/hirakawazoo>  
 Twitter <https://twitter.com/hirakawazoo>  
 動物取扱業の種別:展示 登録番号:生衛動取 第357号 登録の年月日:H28.5.11  
 有効期間末日:H33.5.11 動物取扱責任者:桜井普子

携帯サイトへアクセス!



ZOOっと平川 vol.24 2019年10月発行

編集・発行



〒892-0816 鹿児島市山下町15番1号  
 TEL.099-221-5055 FAX.099-223-5690  
 URL <http://k-kouenkousya.jp>  
 Facebook <https://ja-jp.facebook.com/k.kouenkousya>

**特集1**  
**飼育員の一日(ビントロング飼育員の巻)**

**特集2**  
**ツルの展示種数が12種類になりました!!**

**特集3**  
**スペシャルサマースクールを実施しました!**



# 飼育員の一日



ビントロング  
飼育員の巻

ビントロングは、ジャングルなどの密林地帯に生息し、別名「クマネコ」とも言われる動物です。ジャコウネコ科に分類され、最大の特徴は、ポップコーンのような匂いと体と同じくらい長い尻尾です。ポップコーンのような匂いは草木にこすりつけて縄張りを主張する事に役立ち、長い尻尾は樹上で生活する際にバランスを取ったり物に巻き付けたりするときに役立ちます。

<学名> *Arctictis binturong*    <生息地> インドネシア、マレーシア、ネパールなど  
<英名> Binturong  
<分類> 食肉目ジャコウネコ科    <主食> 果実中心の雑食性



可愛らしい顔をしています



体と同じくらい長い尻尾

インドゾウ、アライグマ、ミーアキャット、オグロプレーリードッグ、マントヒヒ、バーバリーシープ、オーストラリアの自然ゾーンの動物(オオカンガルー、ベネットアカクビワラビー、エミュー、コクチョウ)



小さなプレーリードッグから大きなゾウ、そして鳥類など様々な動物を担当しています。

飼育担当者: 松元、菊村

私たち2人が担当しています。その他には、インドゾウ、ミーアキャット、マントヒヒ、オオカンガルーなどを担当しています。

その他の  
担当動物



## ある日のスケジュール

8:15~

朝の巡回と観察

各獣舎を回り動物の様子を観察します。動物の様子、エサの食べ残し、糞の状態の確認などを行います。

9:00~

インドゾウのトレーニング(健康チェック)

動物にとって日々の健康チェックは欠かせません。しかしゾウは体が大きいため、飼育員が力づくで体を動かしたりすることは不可能です。そこで、ターゲット(棒の先端)に目標の体の部位を付けるというトレーニングを行います。これをターゲットトレーニングといいます。これにより、四肢を出させたり、体を寄せたり、座らせたりといった動きが可能になります。場合によっては、写真のように桶に足を入れて洗浄や消毒を行ったりすることもあります。



9:30~

インドゾウ舎の掃除

インドゾウの糞は1日分で、ものすごい量になります。それらの糞を全て集めて部屋を綺麗にします。



10:00~

ミーアキャット、プレーリードッグ、アライグマ、ビントロング、マントヒヒ、オーストラリアの自然ゾーンの動物舎の掃除

動物たちが夜間過ごしていた部屋(寝室)を綺麗に掃除します。

### 11:00～ 各動物舎の糞捨て、エサの準備

動物によって食べる種類や量、与える回数など様々です。ビントロングの場合、エサは1日1回、リンゴやミカンなどの果物が中心ですが、その他煮たサツマイモや馬肉、トマトなどを与えます。



### 12:00～ 休憩

昼食をしっかり食べて、午後からの作業に備えます。

### 13:00～ ミーティング

動物の状態や作業内容、イベントなどについて報告し合い、情報の共有を行います。

### 13:15～ 各動物への給餌や展示場整備

ビントロングは密林に住む樹上性の動物です。彼らの生態に適した展示場になるよう立体的に組木を組んだり、植物を植えたりして快適に過ごせるようにします。展示場には、クワズイモやバナナ、アオキなどの植物を植えており、地面には落ち葉を敷きつめています。

昼間は落ち葉の上でのんびり寝転がって休息する様子が見られます。また、植物の成長を促すことや、現地の“スコール”に見立てるために展示場の屋根に設置したスプリンクラーを回すこともあります。



また、夏に開催している「夜の平川動物公園」では、月明かりをイメージした照明にし、夜の森林の雰囲気を作っています。

### 15:00～ 展示物の作製

通常の作業の合間に展示物の作製を行います。ビントロングの生態だけでなく、実際にくらしている東南アジアでどのような状況におかれているか、わかりやすくパネルで解説しています。掲示板も手作りで、雰囲気が出ています。また、得意のチェーンソーで来園者の方が休憩するためのベンチや、動物のオブジェも作ってしまいます。園内各所に設置しているので、探してみてください。



### 16:00～ 各動物の収容、展示場の掃除

動物たちが昼間過ごしていた展示場を綺麗に掃除します。

### 17:00～ 日誌記入、業務終了

その日あった出来事を細かく記録します。毎日の出来事を記録することで、今後の飼育業務に活かします。今日も1日お疲れ様でした！

### 飼育員からひとこと

あまり知られていないビントロングですが、その愛らしい姿と個性的な特徴でここ最近徐々に人気と知名度がアップしています。

しかし、彼らの生活する現地の森での出来事を皆さんはご存知でしょうか？アブラヤシ農園の開発や違法伐採の横行により彼らの生息地は減少しており、ビントロングは現在絶滅の危機に瀕しているのです。

動物園にお越しの際は、目の前にいる動物たちをじっくり観察するだけでなく、彼らが直面している様々な問題についても興味を持っていただけるとうれしいです。



担当者：松元(悠)、菊村

# ツルの展示種数が12種類になりました!!



## 【2種のツルが仲間入り】

平川動物公園に新しくソデグロツル、ナベツルの2種が仲間入りし、世界のツルゾーンでは世界のツル全15種のうち12種を見ることができるようになりました。

## 【新たに仲間入りしたツルの紹介】

オスは2012年6月10日生まれ、メスは2012年6月19日生まれの同級生ペアです。一見、全身は真っ白ですが、翼を広げると先端が黒いのが特徴です。

特に、ペアでの鳴き交わしが特徴的で、頭部を上下に振りながら、翼を半開きにして鳴きます。日本には稀に飛来し、鹿児島県出水地方でナベツルとマナツルの混群と共に越冬することもあります。

### ソデグロツル

- <学名> *Leucogeranus leucogeranus*
- <英名> Siberian white crane
- <分布> ロシアで繁殖し、インドやイラン、中国で越冬
- <来園日> 2018年11月14日
- <年齢> 共に7歳



鳴き交わしの様子。翼の先端が黒いのもわかります。



同時に来園したオス(手前)とメス(奥)

### ナベツル

- <学名> *Grus monacha*
- <英名> Hooded crane
- <分布> 中国やロシアで繁殖し、日本で越冬
- <来園日> 2018年8月28日
- <年齢> 2歳(推定)
- <性別> メス
- <個体名> ウメ



## 【ナベツルのウメはどこから、なぜ平川動物公園にやってきたの?】

鹿児島県出水市の出水平野は世界でも有数のツルの越冬地として知られており、例年1万羽以上のツルたちが越冬のために渡ってきます。毎年10月頃から中国やロシアより渡来し、出水市で越冬した後、2月～3月になると繁殖地の中国やロシアへ戻っていきます。



圧巻!



出水へやってくるツルで最も多いのがナベツルです



大空を羽ばたくナベツル

この一連の移動の中で、ケガや病気などにより越冬地や繁殖地にたどり着くことができないツルや、無事にたどり着いたとしてもそこで負傷したり、命を落としたりするツルもいます。

今回新しく仲間入りしたウメは、2017年1月15日に越冬地の出水市で翼と脚を負傷していたところを出水市ツル保護センターに保護され、しばらく療養していました。

治療により一命はとりとめましたが、残念ながら翼のケガは完治しなかったため、もう飛ぶことは出来ず、野生に戻ることもできません。しかし、美しい姿やたくましく生きる姿は野生で暮らしていたころと何ら変わりありません。

出水市ツル保護センターは非公開施設で、保護され野生に戻るのことができないツルたちは一生をここで過ごします。この度、出水市や環境省のご協力により2018年8月28日に当園に迎えることとなりました。平川動物公園でのナベツルの飼育、展示は2007年以来、実に11年ぶりのことでした。



茶色の輸送箱の中に立った状態で入っています



出水市ツル保護センターを出発



平川動物公園へ到着

来園後は、元々野生で暮らしていたウメを新しい環境にゆっくりと慣らしながら、2019年1月15日より一般公開を始めました。展示や解説を通して、ツルのことや取り巻く環境など、少しでも多くの方へ伝えたいと思っています。

また、ナベツルは絶滅が危惧されている動物で、国内の動物園で飼育されているナベツルは2018年12月現在、6羽と危機的な状況です。ナベツルはツルの中でも特に繊細な性格の持ち主で、繁殖技術も確立されていません。このようなことから、日頃の観察や飼料の工夫など、飼育下だからこそその取り組みによって解明できることや、可能性がたくさんあると思います。

※活動の一部には公益社団法人日本動物園水族館協会の助成を受けています。

ナベツルは鹿児島県民にとって身近な野生動物であり、平川動物公園は1982年には日本全国の動物園や水族館の中で初めて繁殖に成功し、繁殖賞を受賞したこともあるなど何かと縁のある動物です。

新しい仲間たちを迎え入れ、魅力アップした世界のツルゾーンへ是非お越しください。



繁殖賞受賞メダル



初めて繁殖したナベツルのヒナ

# スペシャルサマースクールを実施しました



夕暮れ時に集合

はじめに日頃のサポートのお礼と、イベントの趣旨説明、それからアイスブレイク「夜の動物たち」で夜行性の動物の特徴や夜の動物観察のポイント、写真や動画を使ってお話ししました。昼行性の動物たちは眠っているかもしれませんが、観察の際は動物を起こしたりせず、「夜の状態を保ってあげること」。これが動物本来の夜の過ごし方を観察するポイントです。懐中電灯に赤いセロファンを巻き、お楽しみの園内見学へ出発！

まずはキリン舎の寝室で、4月10日に誕生したキリンのこどもを見学。父親のハート、お兄ちゃんのハヤテも寝室に戻ってきていたので4頭並ぶ姿は圧巻でした。夜遅くなると座り込んで体を休める様子も見られることなどをお話しました。

はじめに日頃のサポートのお礼と、イベントの趣旨説明、それからアイスブレイク「夜の動物たち」で夜行性の動物の特徴や夜の動物観察のポイント、写真や動画を使ってお話ししました。昼行性の動物たちは眠っているかもしれませんが、観察の際は動物を起こしたりせず、「夜の状態を保ってあげること」。これが動物本来の夜の過ごし方を観察するポイントです。懐中電灯に赤いセロファンを巻き、お楽しみの園内見学へ出発！



なんとなくキリンたちの動きものんびり

続いてはチンパンジーの寝室見学。4月に2歳になったイチローと母親のイチエがぴったりとくっついて眠る準備をしていました。「何歳ぐらいまでお母さんと一緒に眠るの？」などの質問が出ました。(同じ場所で眠るのは4~5歳頃まで)

今回のイベントでは、昼間動物たちが過ごしている展示場にも入っていました。ヤクシマザルたちは既に寝室で休んでいるため、寝室での様子を少し観察していざ展示場へ。ヤクシマザルの展示場は、竹や消火ホースなどを複雑に組んで彼らが思う存分体を動かすことができるようになっています。

間近で見ると、意外な大きさに驚かれていたようでした。



初めて入る展示場にドキドキ



ついひそひそ声に

梅雨も終盤に差し掛かった7月20日(土)に、初めてのイベント「スペシャルサマースクール」を開催しました。このイベントは、当園を日頃応援いただいている平川動物公園サポーターとご家族を対象とし、毎年人気のNightzoo夜の平川動物公園を一足先に楽しんでいただくこと、そして新しいイベントを企画するに際し、サポーターの皆さんに体験していただき、ご意見をいただくことを目的としました。当日は夕方から激しい雨が降ったり止んだりでしたが、8組16名の方々が参加してくださいました。

## <スケジュール>

- 19:00 南会
- 19:05 アイスブレイク
- 19:20 夜の動物園見学  
バックヤードツアー  
自由見学
- 21:00 解散

ふしぎな動物ゾーン、は虫類・夜行性動物館、かごしまの動物ゾーンそしてオーストラリアの自然ゾーンではグループごとに自由見学の時間を設けました。夜行性動物館では日中に動物たちの夜の様子を見ていただくために、照明を昼夜逆転させています。明るい展示場で動物が休んでいる姿は新鮮だったようです。他にもエミューが地面に腰を下ろして休んでいる様子やベネットアカクビワラビーが草を食べる様子など、暗い中でも動物たちを探して観察していただきました。あっという間に時間となり、まるで月明かりに照らされているようなハナジカやダマジカを観察しながら戻ってきました。



ナマケモノが起きていれば…と期待しましたが、ぐっすり ZZZ…



ワラビーは暗い中、草を食べていました



シカも幻想的にみえます

普段の「夜の平川動物公園」と比べるとかなり照明を落としていたので、動物観察が難しいかと心配しましたが、皆さんが熱心に観察してくださったお陰で、より動物の夜の過ごし方をご覧いただくことができたのではないかと考えています。平川動物公園は隣接する錦江湾公園とキャンプ場との一体化事業にも取り組んでおり、今回はサポーターの方に意見をいただくことも目的としていました。皆さんには夏の夜の一時を楽しんでいただき、今後のイベント化に向けて貴重なご意見をいただきました。来年度以降は一般の方にもご参加いただけるイベントを準備していきますので、どうぞお楽しみに！



園路を移動中にツチガエルも登場

## 平川動物公園サポーター制度とは…

当園の取り組みをご理解いただき、飼育環境の充実や園内の利便性の向上のための費用や物品を支援していただくことで、当園の魅力を高め、皆様に親しみを持っていただくための制度です。2019年9月までに、57名の個人サポーター及び2団体の法人サポーターの方々からご支援をいただいています。詳しくは、平川動物公園ホームページ (<http://hirakawazoo.jp/>) をご覧ください。

★★★★★  
世界初  
展示!

## 奄美大島固有種のオオトラツグミを 展示しています

奄美大島でケガをし保護されたオオトラツグミ。状態も安定していることから当園へ移送し、奄美大島の自然や環境を知っていただくために展示公開することにしました。

### こんな動物

オオトラツグミ(大虎鶉)

<学名> *Zoothera dauma major*

<英名> Amami Thrush

<分類> スズメ目ヒタキ科



国の天然記念物、絶滅危惧II類、種の保存法における保護増殖事業対象種。

奄美大島のみで繁殖が確認されている固有亜種。照葉樹林が生い茂る森に生息し、地上でミミズや昆虫類などを採食しています。繁殖期の春にはオスが「キョロン〜」という美しい鳴き声でさえずります。一時は森林伐採などによる生息地の悪化や外来種の影響により、生息数が激減しましたが、近年では増加傾向にあります。

### なぜ平川動物公園にやってきたの?

この個体は、2018年8月に奄美市の山間部の路上で衰弱しているところを保護されました。

右眼を損傷し骨折により飛翔能力が十分になく、野生復帰が困難となりました。ケガの原因はおそらく交通事故です。最近の奄美大島は世界自然遺産の登録を目的として、来島者が増加しています。交通量は増加し、希少種が犠牲になる事故が後をたません。森の中を通行する際には、慎重に運転していただければと思います。

本種の飼育記録はほとんどなく、現在飼育されているのはこの1羽のみです。まだまだ未知な生態解明に貢献してくれることを期待しています。



右眼がみえません

### オオトラツグミを取りまく環境と未来



オオトラツグミが暮らす森



早朝に出会った野生の個体

かつては200羽程度まで減少し、「幻の鳥」といわれました。減少した要因は、森林伐採やマングースなどの外来種の影響によるものです。危機的状況から回復させるため、保全活動と奄美野鳥の会などによるモニタリングが継続されました。環境省の「種の保存法」による国内希少野生動植物種にも指定され、保護増殖事業対象種にもなっています。近年では生息数の回復が見られ、美しいさえずりを奄美の森で聞くことができるようになりました。

しかし、まだ安心できる状況ではありません。奄美大島や徳之島には、アマミノクロウサギやアマミヤマシギ、イボイモリなどの希少種が生息していますが、交通事故やペット目的での捕獲、ノネコによる捕食が問題視されています。世界自然遺産に登録しようと活動している本地域の豊かな自然環境を守るために、様々な問題を解決する必要があります。将来にわたって、固有種が繁栄し続ける環境を保全していくことが私たちの使命だと感じています。

※個体の保護や治療には、ゆいの島どうぶつ病院の皆様、奄美いんまや動物病院の伊藤圭子獣医師にご尽力いただきました。  
※展示や移送に関する費用の一部は、公益社団法人日本動物園水族館協会の助成を受けて実施しています。

## 誕生日おめでとう Birthday

～カリフォルニアアシカのリコとチンパンジーのイチローがすくすく成長中!!～

### リコは3歳に!!

2019年6月20日にカリフォルニアアシカのリコ(メス)は3歳になりました。

リコは3年前、生まれてから10日間は、母親のミュウの母乳を飲んで育てられていました。しかし母乳が足りなかったためか、しだいにやせてきたため、母親から取り上げ、飼育員の手でミルクを飲ませて育てる人工哺育に切り替えることにしました。ミルクの味が母乳と違うため、なかなか飲んでくれないのではないかと心配していましたが、そんな不安をよそに、すぐにミルクを飲んでくれました。このとき、お利口さんと思ったことから、名前をリコと名付けました。

毎日ミルクを飲んですくすくと育ち、7カ月を経過した頃から、食べ物をミルクから魚へ切り替える離乳に取り組み始めました。ミルクと違い、魚のアジはなかなか食べてくれず、食べられるようになるまで5カ月かかりました。

離乳の次は、両親との同居に取り組みました。両親から離れて1年以上経過していましたが、その間に欄越しにお見合いをし、良好な関係作りをしてきました。お見合いの後、両親の暮らすプールに入ると何も問題なく受け入れられ、仲良く3頭で泳ぎ回るようになりました。

今では、泳いでいる父親のコウスケの背中に乗ったり、ミュウのエサを横取りしたりとやんちゃで元気いっぱいな様子で過ごしています。このような姿を見ると、大変な時期もありましたが、無事に3歳を迎えてくれたことをありがたく思います。

3頭のアシカファミリーが、じゃれあって泳ぐ姿はとても微笑ましいので、ぜひ多くの来園者に見に来ていただきたいと思います。



(2016年7月)  
同居に向けお見合いをするリコ(左)とコウスケ(右)



(2019年6月)  
プールでのんびり過ごすリコ(左)とコウスケ(右)

### イチローは2歳に!

2017年4月8日に生まれたチンパンジーのイチロー、早いもので2歳になりました。

母親のイチエに抱かれて生活していたイチローですが、最近はイチエから離れ、自由奔放に展示場やタワーを動き回る、活発な姿を観察できます。

中でも群れのオトナたちと遊ぶ姿はなんとも微笑ましい光景です。イチローは遊んでもらい大喜び。オトナもコドモも満面の笑みを浮かべて遊びます。



イチローを背中に乗せ移動するオトナ(モモ)

もちろん母親のイチエも出産経験はなく、初めての子育てでしたが、平川動物公園に来園する前の到津の森公園で暮らしていたとき、群れの中で子育ての姿を見たり、一緒に遊んだ経験が今回の子育てに活かされています。育児書やテレビなどないチンパンジーの世界では、見て・体験して学ぶことが重要なのです。群れで暮らすことは、イチローにとっても重要で、チンパンジー社会のルールや振る舞いを学び、オトナへと成長していくことでしょう。

しかし甘えん坊な2歳。まだまだ母親の元が一番落ち着くみたいですね。



満面の笑みで、オトナ(モモ)と遊ぶイチロー



母親(イチエ)に抱かれて寝るイチロー